

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	畜産ふん尿処理施設整備事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	農業課		包含する細々目	1	6	1	6	11	2	0	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり												
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要	家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律						
		事業期間	8	年度～	17	年度	関連計画 条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	畜産農家	畜産農家(戸)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			185		185	
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	家畜排せつ物を適正に管理・利用してもらう	家畜排せつ物法適用農家における堆肥化された家畜排せつ物(トン・年間量)	18目標	53000	最終目標	
			18実績	53000	19目標	
			23目標		23実績	最終目標達成年度
	法適用外畜産農家数 (牛10頭・豚100頭・鶏2,000羽未満飼養)	18目標	92	最終目標		
		18実績	92	19目標		最終目標達成年度
		23目標		23実績	最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	国をあげて環境保全型農業が推進される中で、H11年11月に家畜排せつ物法が施行され、一定規模以上の畜産農家には家畜排せつ物の適正な管理・利用が義務づけられた。平成16年中に法適用農家の施設整備がすべて完了したため、今後その適正管理の巡回、良質な堆肥生産及び有効利用について関係団体と協議をする中での巡回指導を行う。	18年度の実績 家畜排せつ物法適用外農家巡回を行い、簡易施設を中心に汚水漏れ等の施設点検を実施し、必要な場合は改善指導を行う	ふん尿処理適正化の農家巡回指導(戸)	92
	19年度計画 適正処理、有効利用についての啓発。施設巡回等の内容について関係団体と検討	ふん尿処理適正化の農家巡回指導(戸)	93	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	0	0
	事業費計(A)	0	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 80	19年度 80
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	286	286
	トータルコストA+B	286	286

特定財源内訳や補足事項	ふん尿処理効率化推進事業(県単)
-------------	------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額等を高める活動をする	既存農業者の産出額(農業):億円	現状値	119.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	139.1
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
畜産業に起因する臭気等の公害発生と、地下水汚染等の環境負担の顕在化を背景に家畜排せつ物の適正な管理及び利用に関する法律が施行されたため。(H11.11施行、H16.11本格適用開始) 本市においても臭気等の畜産公害が増加したため。	BSE発生による畜産物の価格下落以降畜産農家の飼育意欲が減退。また、施設整備による経費負担増と後継者不足により畜産農家の減少に拍車がかかっている。また、農住混在による周辺環境の変化から、悪臭等畜産に起因する環境問題が取り上げられることが多くなってきている。	市民からは、畜産公害排除要請がある。議会からは家畜排せつ物法の市の対応を質問され、畜産農家からは、ふん尿処理施設整備に対してする支援を求める声強い。 ・安心安全な農畜産物を求める消費者の声が高まってきている。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 実施年度 17 具体化	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	